# １０　プロジェクトアドベンチャー体験セミナー

平成１９年３月２日～４日

1　ねらいとその達成状況

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 事業項目・区分<br>（現代的課題等） | ①冒険教育指導者・関係者の研修事業<br>②主体性，社会性を育むための体験活動等事業 | | | |
| 事業のねらい<br>（学習要求や必要課題等） | 他人や自己の「気づき」を体験的・効果的に学ぶための手法であるプロジェクトアドベンチャー（以下ＰＡ）を体験する機会を提供することで，青少年の「心の教育」の推進に資する。 | | | |
| ねらいの達成状況<br>（参加者の変容等） | 参加者自身が青少年の指導に有効なアクティビティを数多く体験し，ＰＡの青少年教育への有効性を実践的に学んだ。 | | | |
| 参加者のアンケート結果（満足度） | ①事業全体 | 100% | ②プログラム | 100% |
| | ③運営 | 100% | ④職員の指導・助言 | 100% |

2　企画・立案

| | |
|---|---|
| 事業の必要性<br>（理由・背景等） | 青少年の問題行動の多くは社会性の欠如に起因するとされる。青少年に望ましい社会性を身につけさせることは，喫緊の教育的課題である。そこで，体験学習の新しい手法であるＰＡの体験を通じ，人間関係能力を高めるための手法を学ぶことにより，青少年の社会性の育成に資することとする。 |
| ニーズの把握状況 | ＰＡの手法は全国的に普及し，有効な教育手法であると認識が広がりつつある。指導者や教育関係者等から，教育活動に取り入れるためのセミナーの開催が求められている。 |
| ねらいとプログラムの関係 | 最初から理論を学ぶことより，実際に参加者自身がＰＡを多数体験することや自らの心の変容や他人が変容する体験を通して，ＰＡの教育的手法としての有効性を認識させるようにした。そして，活動の後にふりかえりを通して，理論を学んだ。 |
| 主なプログラム<br>（タイムテーブル） | 第１日<br>時　間 ／ プログラム ／ 活動内容概略<br>19:00～19:30 ／ 開会式 ／ ねらいの共有化等<br>19:30～21:30 ／ ＰＡ実習Ⅰ ／ アイスブレイク等（室内）<br>第２日<br>時　間 ／ プログラム ／ 活動内容概略<br>9:00～12:00 ／ ＰＡ実習Ⅱ ／ 全体からグループ別へ<br>13:00～16:00 ／ ＰＡ実習Ⅲ ／ グループ別実習<br>19:00～20:30 ／ 講義Ⅰ ／ ふりかえり，理論学習<br>第３日<br>時　間 ／ プログラム ／ 活動内容概略<br>9:00～12:00 ／ ＰＡ実習Ⅳ ／ グループ別実習<br>13:00～15:30 ／ ＰＡ実習Ⅴ ／ グループ別実習，ふりかえり<br>15:30～16:00 ／ クロージング・閉会式 ／ ふりかえり |
| 事業の改善点<br>（継続事業のみ） | ＰＡ経験値の低い参加者層を意識し，初心者向けのプログラムにしたほか，昨年度に比べ実習の時間を増やし，体験活動を多く取り入れた。 |
| 企画・立案体制（関係機関・講師との連携等） | 例年依頼している（株）プロジェクトアドベンチャージャパン（ＰＡＪ）の指導員に講師を依頼し，事業のねらいを共有化した。プログラムデザインについても，スタッフ間でコンセンサスを得た。 |
| 募集人数の設定基準 | 参加者が十分にＰＡを体験し，その指導方法について理解を深めることができる最大人数を，講師と相談の上で設定した。 |
| 実施時期の設定理由 | ＰＡに関するセミナーを初級，中級，上級者向けに段階的に計画した。中級者向け（学校教育や青少年教育の指導者向け）のＰＡセミナーを新年度の学期初めである４月に設定したので，それ以前のこの時期に設定した。 |

3　参加状況等

| | |
|---|---|
| 募集人数・募集対象 | 募集人数：２０人　募集対象：高校生，学生，社会人 |
| 参加者数（申込者数） | 参加者数：２６人（申込４２人） |
| 参加者内訳 | 高校生：２人，学生：７人，社会人：１７人<br>（１０代５人，２０代９人，３０代５人，４０代６人，５０代１人） |
| 参加地域 | 設置道県：７人，設置道県以外：１９人（内訳：栃木県３人，埼玉県６人，東京都１人，神奈川県２人，福島県１人，新潟県４人，岩手県１人，奈良県１人） |

| | |
|---|---|
| 広報活動 | 開催要項・チラシの配布及び掲載（群馬県内の社会教育施設・都道府県委員会等・青少年教育団体・各種学校・当施設にてＨ１８年度にＰＡを体験した団体・ＷＥＢ上・新聞社等） |
| 参加費 | ６，０００円 |
| 運営担当者 | 企画指導専門職：４人 |

4　事業実施

| | |
|---|---|
| ねらいの周知・方法（参加者・講師・職員） | 参加者には，ＷＥＢ上でねらいや当日の内容を確認できるようにした。さらに２次案内によりねらい等を周知した。講師と職員とはメールのやりとりや電話連絡・事前の打ち合わせにおいて，ねらいを共有化した。 |
| 参加者の学習状況（学習内容・方法） | 初日はアイスブレークに主眼を置き，第２日から２グループに分け，研修した。各グループでゲームやアクティビティーを数多く体験することを中心に，アイスブレークからウォーミングアップ，さらにエレメントを試用しての活動，ふりかえりの順で体験し，学習を深めさせた。 |
| 日程運営（スケジュール） | 多数のアクティビティーを行うために２泊３日の日程で計画したので，参加者が参加しやすいよう，金曜日の夜からスタートすることとした。また，アイスブレーク，ＰＡ体験，体験学習法についての講義等が効果的に学べるプログラムとなるように日程を作成した。 |
| 学習環境（施設設備・教材資料等） | ＰＡコースに近い音楽室を，ベースの会場として設定し，ＰＡコースへもそこから出発できるようにした。さらに，研修内容をふりかえったり，各グループが共有できるように，アクティビティリストを壁面に掲示した。 |
| 健康・安全対策 | 安全管理マニュアルに基づいて活動中の安全対策を実施した。緊急体制については事務室待機職員と連携し，スタッフ全員で手順を確認した。水分補給のコーナーを設けたり，屋外へ行く場合にはペットボトル飲料水を配り，参加者全員の体調管理に配慮した。また，アクティビティー中は講師が安全に関する注意を参加者に行い，参加者自身も安全管理に配慮した。 |
| 講師・関係機関等との連携（ボラ等を含む） | 講師派遣を依頼したＰＡＪに対し，実施前にコース点検を依頼して安全対策を講じた。また，事業のねらい，雨天対応も含めてのプログラム内容，その進行予定，安全対策等を確認した。セミナー前，セミナー中，セミナー後にふりかえりを行い，情報を共有しプログラム等の改善に努めた。 |

5　事業実施後の評価や普及

| | |
|---|---|
| 参加者の評価（アンケートの自由記述等から） | 「生徒との接し方や授業，その他の活動のふりかえり等に役立てたい」「野外活動や人間関係づくりの活動を行うときにこの体験から学んだことを活かしていきたい」などと，研修成果を各々がかかわる教育現場で活かしていきたい等の感想が多く聞かれた。 |
| 講師・関係機関等の評価 | 参加者の目的意識が明確で，ＰＡの手法を各自の職場等で活用してくれる可能性を強く感じたとの評価を得た。 |
| 職員の評価（企画段階から関わったボラ等を含む） | 講師との共通理解を十分図り，参加者の立場を考慮した運営をすることができた。教育関係者が多かったので，すぐにでも青少年教育に貢献することが期待される。 |
| 事業報告の状況 | 文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。ＷＥＢ上にも事業報告を公開した。また，所内にも報告の掲示をした。 |
| 普及実績（計画・予定を含む） | 今回のセミナー参加者を，ＰＡ関連の中級者向けのセミナーに参加してもらうことによって，指導者層の育成とスキルアップを目指す。さらに上級者向けのセミナーを開催し，参加者同士がＰＡ指導者としての連携を図り，この教育手法を様々な分野で広範囲に普及していくようにする。各教育分野の関係者及び青少年教育にかかわりたいと希望を持つ青年や指導者を対象としているため，各分野・各地域での教育的効果が期待される。 |
| 事業後の反応（参加者・普及先等） | 参加者から，来年度実施予定の関連事業への申込みがあった。また，「事業に参加して自分自身が変わることができた」「学んだことを教育現場で活用して成果があった」などというメールをいただいた。 |

6　その他の特記事項（成果等）

本事業の研修成果としては，参加者自らの気づきがあったり，直接体験をきっかけにその効果を知り，ＰＡを使える指導者になり普及させようとする動きが出てくることが期待される。

本事業をＰＡ初級者の研修事業と位置づけ，ＰＡの手法を日常的に教育活動に取り入れている指導者を対象とした新事業（来年度企画事業）につなげたい。その事業では，事例や効果的な活用法の研究，ＰＡの有効性の検証などをプログラムに取り入れて実施する予定である。

今回の講師：ＰＡＪトレーナー　杉村厚子氏，畝本智美氏